

全国保険医新聞

発行所 全国保険医新聞編集委員会
東京都渋谷区東 2-5-5
電話 151-0053
新宿区農協会館内
03(3375)5121
03(3375)1885
FAX 03(3375)1885
発行人 住江 憲男
振替口座 00160-0-140346
購読料 年1万円750円
(会員の購読料は、会費に含まれています)
http://hodanren.doc-net.or.jp/

医療界は NO TPP



医団連集会で TPP の危険性を訴える住江会長

政府は4月5日の閣議で環太平洋連携協定(TPP)交渉に臨む体制を整えた。関係閣僚の下に対策本部を設置。7月の交渉参加を目指す構えだ。内閣設置の各会議では、医療分野の市場開放が議論され、交渉参加への国内制度の地ならしも進んでいる。4月4日には、全国保険医団体連合会をはじめ医療系6団体でつくる医療団体連絡会議「医団連」がTPP参加撤回を求めて国会内で集会を開いた。交渉参加を断念させる運動はこれからが正念場だ。

医団連、日医、日歯は反対懸念

170人が参加した4日の医団連の集いで、開会のあいさつに立った住江会長の住江憲男会長は「TPP交渉参加は、国民の生活が不安定になる。TPPの危険性を広く訴え、大きな世論をつくらせよう」と呼び掛けた。

交渉参加へ地ならし 医療の規制緩和許すな

「TPPに参加表明すれば、まったくのブラックボックスの交渉の中に、白紙委任状を持って飛び込むことになる。米国の要求が押し付けられ、貧困と格差拡大にあえぐ国民の生活が不安定になる。TPPの危険性を広く訴え、大きな世論をつくらせよう」と呼び掛けた。

6・2 NO NUKES DAY 反原発3団体が統一行動



行動の成功へ向け決意を固める各団体代表ら

政府はこれらの会議で、規制緩和と給付削減の方針を盛り込んだ報告書を6月を目途にまとめる見通しだ(関連3面)。

TPP交渉をめぐる情勢が世論の注目を集める中、背後では医療の市場化・営利化を加速させ、交渉参加への地ならしが進んでいる。こうした国内の動きにも警戒が必要だ。

参院選を見据え 連帯広げよう TPP反対の宣伝や連帯の取り組みが全国の保険医協会に進んでいる。

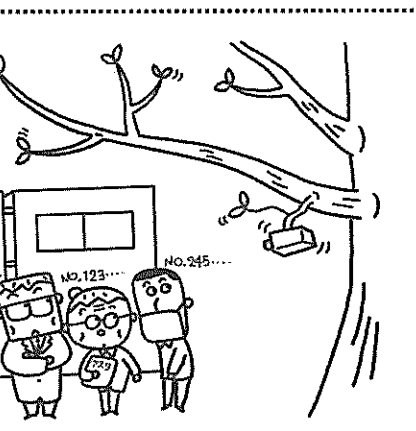
今年3月に三重、4月に大分の両協会が、遺伝子組み換え作物の開発企業であり、TPPを強力に推進するモンサント社の食の安全を問う映画『モンサントの不自然な食べもの』の上映会を開催した。上映会は、6月に静岡協会でも予定している。

主な記事

- ▼政策解説「医療を力不儲けの手段に」……………3面
- ▼小野市生活保護条例は誰のためか……………3面
- ▼休保「加入してよかった」会員の声紹介……………4面
- ▼「保険で良い歯科医療の実現へ」署名運動スラット……………8面

「いしや先生」連載開始

【全国保険医新聞】5月5・15日号から、小説「いしや先生」の連載がスタートします。執筆は作家・脚本家のあべ美佳さん。昭和初期、陸の孤島と言われ、無医村であった山形県大井沢村。貧困や女性などがゆえの逆境、幾多の困難と闘いながら地域医療にまい進し、住民の生命を守った女性医師・志田周子(しだちかこ)の活躍を描きます。お楽しみに。



共通番号制—「監視社会」の芽吹きか 高村 忠範

3団体合同の呼び掛け 全文掲載 6面

保団連も参加する原発フ、戸田裕大の各氏が行動をなくす全国連絡会は6月2日、首都圏反原発連合、さよなら原発100万人アクションと共闘の概要と成功への思いを語った。

映画「遺体」明日への十日間が公開されている。震災直後の岩手県釜石市。医師による遺体検視・検案、歯科医師による身元確認作業を描いたドキュメンタリー映画だ。▼電気も水もない状況で、いかに医師・歯科医師が行動したか。一般には一切報道されなかつた彼らの活躍「悲惨」という言葉を苦しみながら越え、亡くなった人と遺族のためにの言葉が、多くの現場の人々を突き動かした様子が再現されている▼あの大震災からもう2年経過している。しかし、いまだ被災地の復旧はもとより、復興も進んでいない。各自治体による町づくり計画は、進行しようにも、財源・計画の見直しを迫られるなどの障壁で遅々として進まない。多くの被災地には平坦な空間が広がる▼自民党・安倍内閣の誕生以来、「3本の矢」の合言葉で、「アベノミクス」が叫ばれている。国民の合意が得られないまま、いつの間にかTPP参加にもゴーサインが出され、アメリカ追随政策に突き進んでいる。「震災からの早期復興」を叫びながら、現実それは二の次となつている。被災地を忘れた施策にまい進していることに怒りを覚える。(YOP)

羅針盤

映画「遺体」明日への十日間が公開されている。震災直後の岩手県釜石市。医師による遺体検視・検案、歯科医師による身元確認作業を描いたドキュメンタリー映画だ。▼電気も水もない状況で、いかに医師・歯科医師が行動したか。一般には一切報道されなかつた彼らの活躍「悲惨」という言葉を苦しみながら越え、亡くなった人と遺族のためにの言葉が、多くの現場の人々を突き動かした様子が再現されている▼あの大震災からもう2年経過している。しかし、いまだ被災地の復旧はもとより、復興も進んでいない。各自治体による町づくり計画は、進行しようにも、財源・計画の見直しを迫られるなどの障壁で遅々として進まない。多くの被災地には平坦な空間が広がる▼自民党・安倍内閣の誕生以来、「3本の矢」の合言葉で、「アベノミクス」が叫ばれている。国民の合意が得られないまま、いつの間にかTPP参加にもゴーサインが出され、アメリカ追随政策に突き進んでいる。「震災からの早期復興」を叫びながら、現実それは二の次となつている。被災地を忘れた施策にまい進していることに怒りを覚える。(YOP)